

【特別講演】

オスカー・ワイルドと私

日本ワイルド協会、ワイルド受容研究、大学教育

佐々木 隆

1975年に設立した日本ワイルド協会は、世界で初めてのワイルド専門学会として誕生。1997年には世界に先駆けて山田勝編／日本オスカー・ワイルド協会協力として『オスカー・ワイルド事典』を出版した。講演者は1986年に日本ワイルド協会に入会し、現在に至っている。講演では「1 なぜ、どうしてオスカー・ワイルドを研究するのか?」「2 日本ワイルド協会の存在」「3 ワイルドの受容研究」「4 大学教育とワイルド」の順で、個人的な日本ワイルド協会の関わりから研究や大学教育に関することなどを絡めて講演を行う予定である。

ワイルドを研究するスタートは何であったのか、日本ワイルド協会とはどのような存在なのか、皆さん自身もその原点について思い返してもらいたい。講演者はもともと日本のシェイクスピア受容研究からスタートしたが、その中で自然にワイルド受容研究にも結びつくものがあったこと、研究では人との出会いが大きく影響したこと、日本ワイルド受容の実体と今後の展望についても触れていきたい。

日本ワイルド協会に所属している多くの研究者が大学等の高等教育機関に所属し、大学教員として「教育・研究・(校務)・(社会貢献)」の4つの柱を中心に日々過ごされているのではないか。オスカー・ワイルドに限らず、大学教育における文学の役割や扱いは昨今大きく変わってきている。大学のカリキュラム編成しかり、また授業科目の内容にまで大学の意向が反映されることが増えて

いる。文学を主として研究している教員の多くが、大学の授業では文学系の授業を担当すること以上に語学の授業を担当することが多くなっているのではないだろうか。ならば、大学教育でどのようにワイルドを生かしていけるのか？ ワイルドの生き方だろうか？ ワイルドの作品から感じるものだろうか？ ワイルドの名言だろうか？ 研究が人生を導くのか、それとも人生が研究を導くのか？